

クレスコ憲章

- 一.クレスコは人間中心、実力本位の会社である
- 一.クレスコは自由、若さ、夢を持つ会社である
- 一.クレスコは最高の技術を発揮する会社である
- 一.クレスコは皆が経営する会社である
- 一.クレスコは世界で生きる会社である

CRESCO

CRESCO REPORT 2010

第23期 中間事業報告書
2010.4.1.~2010.9.30

株式会社クレスコ
証券コード:4674

株主のみなさまへ

利益の出る体質、体制への刷新

みなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

ここに第23期(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)の中間事業報告書を作成いたしましたので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

さて、ご周知のとおり、昨今の情報サービス産業は、グローバル化が進展する中、新たな競争ステージに突入しております。この荒波を乗り越えるべく、当年度は「足固めの1年」と位置づけ、「利益の出る体質、体制への刷新」を基本方針に抜本的な改革を行っております。

当社企業グループ一丸となって、多様化する市場ニーズや技術動向にスピーディーかつ柔軟に対応できるサービス基盤を構築し、更なる収益性の向上を目指してまいります。

今後も、企業のメインITソリューションパートナーとして、お客様満足度No.1を目指し、みなさまからのご信頼とご期待にお応えしてまいりますので、なお一層のご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長兼COO

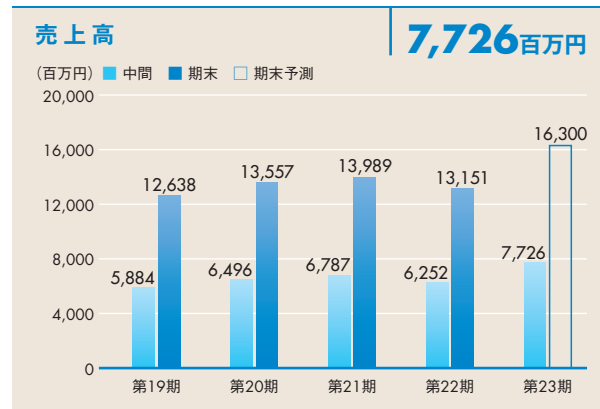
熊澤修一

代表取締役会長兼CEO

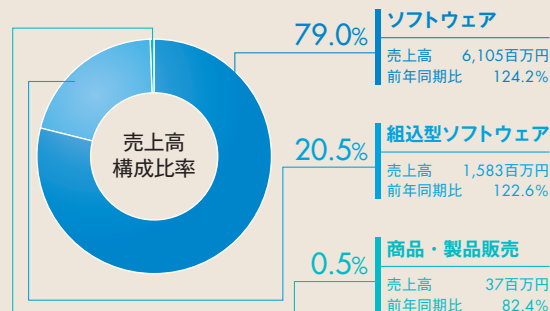
岩崎俊雄

連結業績ハイライト

当中間期の日本経済は、回復の兆しはあるものの、市場自体が縮小し、右肩下りの景況感となりました。その結果、当初目論んでおりましたIT投資の回復は勢いを弱め、受託ソフトウェア開発を主力とする当社企業グループにとっては厳しい事業環境でございました。このような事業環境の中、当中間期は「①ソリューション営業の強化、②事業組織の大構造改革、③コスト構造の見直し、④M&Aによるグループ経営基盤の強化と再構築」を重点施策とし、経営課題の克服に努めてまいりました。この結果、売上高は77億26百万円(前年同期62億52百万円)、営業利益1億97百万円(前年同期▲79百万円)、経常利益3億44百万円(前年同期11百万円)、中間純利益1億91百万円(前年同期▲1億33百万円)となりました。



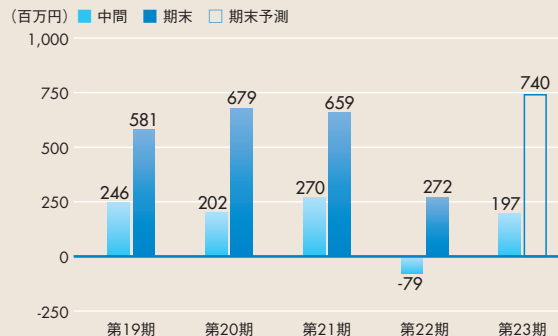
セグメント別売上高・構成比率



連結業績ハイライト

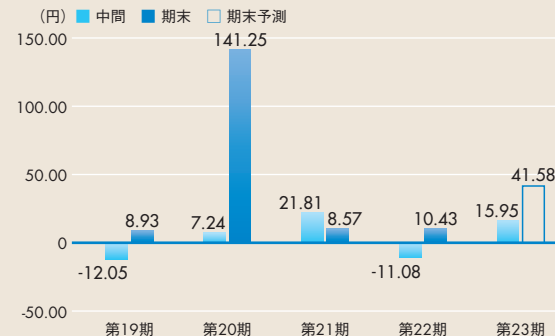
営業利益または営業損失

197百万円



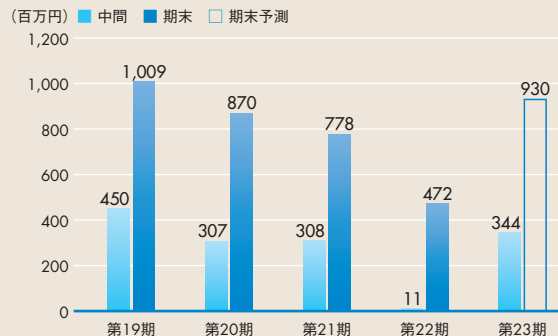
1株当たり純利益または純損失

15.95円



経常利益

344百万円



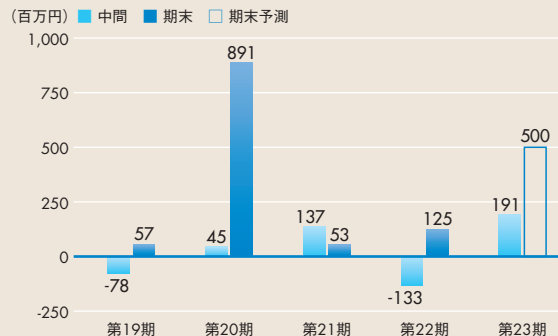
総資産

11,591百万円



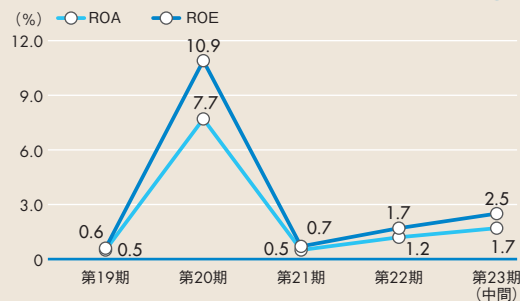
純利益または純損失

191百万円



ROA & ROE

ROA 1.7%
ROE 2.5%



中間決算のご報告

当中間期の振り返り

【事業環境】 当中間期のIT投資は、システムの更改需要が回復基調に転じるなど、一部で明るい兆しが見られたものの、経済の持続的な回復には未だ不安定要素が多い事業環境でありました。当社企業グループのお客様におきましても、景気の不透明感を背景に投資抑制傾向が継続しました。一方で、仮想化/統合化やクラウドコンピューティングの波が市場へ与えた影響は大きく、システム効率化やコスト削減に繋がるIT投資への選別投資傾向が強まるなど、市場ニーズは急速に変化し、案件獲得競争も一層激しいものでありました。

【会社別業績概況】 クレスコは、宅配便業界向けの事業が堅調に推移したものの、主力の受託開発事業全体では、案件の減少や小規模化、厳しい価格競争等により、リーマンショック以前の水準に戻った程度と本格的に回復したとはいえない状況が続いております。子会社は、ワイヤレステクノロジーが案件の受注時期に

当中間期業績[連結]

(単位:百万円未満切捨)

実績[前年同期比]	
売上高	7,726 (123.6%)
営業利益	197 -

当中間期業績[単体]

(単位:百万円未満切捨)

実績[前年同期比]	
売上高	5,551 (100.5%)
営業利益	175 -

当中間期業績[連結子会社]

(単位:百万円未満切捨)

	アイオス	クレスコ・ イー・ ソリューション	ワイヤレス テクノロジー
売上高	1,337	671	36
営業利益	52	14	▲ 2
	クレスコ・ コミュニケーションズ	クレスコ・ アイディー・ システムズ	インフィニード
売上高	84	13	66
営業利益	▲ 6	▲ 28	▲ 4

ズレが発生したために減収となりましたが、クレスコ・イー・ソリューション、クレスコ・コミュニケーションズ、クレスコ・アイディー・システムズの3社は増収に転じました。なお、本年4月1日から当社企業グループの一員となりましたアイオス、インフィニードは堅調に推移し、業績拡大に貢献しました。

【事業別業績概況】 大規模システム開発を中心としたSI系のビジネスは全体として低調でありましたが、セキュリティ製品の販売やERPコンサルティング、企業向けソーシャルネットワークサイトやブログを核としたインターネット・コミュニケーションサービス等のサービス系ビジネスは、堅調に推移しております。メーカー向けの組込系ビジネスは、カーオーディオ関連が伸びていましたが、お客様の開発コスト削減や開発拠点の海外移転などの影響により、案件ボリュームや収益性がやや低下しております。

高付加価値ビジネスの展開

モノ作りから 価値の提供へ事業をシフト

「ITの可能性を最大限引き出し、お客様の事業発展を支援する」を基本理念とし、サービスビジネス(ITアドバイザリーサービス、オフィスセキュリティサービス、データ連携サービス、アプリケーションオーダーサービスなど)を推進しております。当ビジネスは成熟期を迎えた情報サービス産業の大転換期を想定し、2007年4月からのクレスコ3ヶ年中期経営計画において策定・準備をいたしました。これらのサービスは従来の製造分野(モノ作り)からサービス分野(価値提供)への事業シフトであり、お客様の「事業」そのものの発展をITを駆使した手法を通じて支援し、共存・共栄を図っていくものです。これはまさにエンドユーザフォーカスの第2ステージとなる取組みであり、「企業のメインITソリューションパートナーを目指す」という当社経営ビジョンの根幹を成すビジネスでもあります。

| 中間決算のご報告

グループ戦略

各社の特色を活かした
グループ総合力を結集したサービスを

当社企業グループの経営基盤強化も当期の重要な経営課題です。現在、クレスコを中心に連結子会社6社、関連会社2社(アプレッソ、ウエイン)の体制で、各社各様の特色を活かしながら、営業活動における協業・協同提案をとおして、グループ総合力を結集したワンストップ・ソリューションを展開しております。クラウドコンピューティングやソーシャルネットワークの台頭によりITへの期待や活用ニーズが大きく変化している中、当社企業グループはシステムおよび製品開発(モノ作り)から経営・業務改革コンサルティングまで、お客様のニーズに合わせた幅広いサービスメニューを強みにしております。今後も「お客様の真の期待に応える」をモットーに最適な製品、実践的なベストサービスをスピーディーに提供してまいります。

グループの事業内容

	本社・営業所	主な事業
クレスコ	東京 札幌	システム開発(基盤、アプリケーション、組込み)およびITコンサルティング業務
クレスコ・イー・ソリューション	東京	ERPシステムの導入およびコンサルティング、アドオンプログラム開発
ワイヤレステクノロジー	東京	Bluetoothなど近距離無線通信関連の開発および輸入販売
クレスコ・コミュニケーションズ	東京 沖縄	インターネット・コミュニケーションサービス事業
クレスコ・アイディー・システムズ	東京	RFIDに関する設計開発業務および関連製品の製造、販売
アイオス	東京 大阪	ビジネス系システム開発および情報処理サービス業務
インフィニード	博多	ソフトウェアの設計・開発およびコンサルティング

| トピックス

沖縄活性化のプロジェクトを推進

クレスコ・コミュニケーションズ(本社:東京都品川区、代表取締役社長:稲垣昭治)は、沖縄の観光事業や自治体の支援プロジェクトを展開しております。沖縄コンベンションビューローと推進しておりますソーシャルメディアを活用した観光サポーター事業(投稿動画と翻訳サービスを融合した「地域観光事業支援サービス」)や、沖縄県の3市町(那覇市・宜野湾市・南風原町)が共同で設立したポータルサイト「Okinavita(オキナヴィータ)」の運営など、



ソーシャルネットワークを活用した「ビジネスコミュニケーションの仕掛け人」として新たなビジネス分野を開拓してまいります。

「One% Club」のご紹介

1995年3月兵庫県南部地震災害への支援を機に、「まずはできることから社会貢献を何かの形で表したい」という思いから「One% Club」を発足いたしました。社員の任意加入団体ではありますが、早15年が経過いたしました。国内外を問わない災害地区への義援金をはじめ、公益財団法人日本盲導犬協会や認定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会、財団法人家族計画国際協力財団(ジョイセフ)等の活動を支援しております。クレスコは社会のため、自分たちのために「信頼される良き企業市民として真に豊かな社会の実現に向け、自ら考え、行動し、共感



を得る社会貢献活動を実践する」を基本理念とし、社員と会社が協力して諸活動に取り組んでおります。

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:百万円未満切捨)

	2009 2010年3月31日現在	2010 2010年9月30日現在
(資産の部)		
1 流動資産	5,428	6,084
2 固定資産	5,064	5,506
資産合計	10,493	11,591
(負債の部)		
3 流動負債	1,906	2,231
4 固定負債	1,020	1,799
負債合計	2,926	4,030
(純資産の部)		
株主資本	7,856	7,958
評価・換算差額等	△ 309	△ 416
少数株主持分	20	19
5 純資産合計	7,566	7,560
負債純資産合計	10,493	11,591

中間連結損益計算書

(単位:百万円未満切捨)

	2009 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	2010 2010年4月1日から 2010年9月30日まで
6 売上高	6,252	7,726
売上原価	5,593	6,693
売上総利益	658	1,033
販売費および一般管理費	738	836
営業利益	△ 79	197
営業外収益	120	156
営業外費用	28	9
経常利益	11	344
特別利益	51	108
特別損失	222	168
税金等調整前中間純利益	△ 159	284
法人税、住民税および事業税	72	117
法人税等調整額	△ 95	△ 24
少数株主利益	△ 2	△ 0
中間純利益	△ 133	191

09

1 流動資産

6億56百万円
(前期比)

新規子会社の増加等により現金および預金が5億32百万円増加し、仕掛品が1億10百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて6億56百万円増加し、60億84百万円となりました。

2 固定資産

4億41百万円
(前期比)

新規子会社の増加等により繰延税金資産が1億86百万円、長期預金が1億円、敷金および保証金がそれぞれ66百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて4億41百万円増加し、55億6百万円となりました。

3 流動負債

3億25百万円
(前期比)

未払法人税等が1億52百万円減少したものの、短期借入金が60百万円、1年内返済予定の長期借入金が2億64百万円、賞与引当金が69百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて3億25百万円増加し、22億31百万円となりました。

4 固定負債

7億78百万円
(前期比)

長期借入金が4億37百万円増加し、退職給付引当金が2億8百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて7億78百万円増加し、17億99百万円となりました。

5 純資産合計

6百万円
(前期比)

利益剰余金が1億1百万円増加したものの、その他有価証券評価差額金のマイナスが1億7百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて6百万円減少し、75億60百万円となりました。

10

6 売上高

1. ソフトウェア開発事業

売上高は、前年同期より11億90百万円増加し、61億5百万円となりました。当中間期は、4月1日付にて、アイオスとインフィニードを完全子会社化しており、当該セグメントの業績に貢献しております。また、ERPシステム導入・コンサルティングを主力とするクレスコ・イー・ソリューションも黒字に転換いたしました。業種別の売上高を比較しますと、主力の金融分野においては銀行および保険業の案件が増加し、前年同期を8億8百万円上回りました。公共サービス分野では宅配便関連の受注がやや鈍化したものの、前年同期を2億40百万円上回りました。流通・その他の分野につきましても、前年同期を1億41百万円上回りました。

2. 組込型ソフトウェア開発事業

売上高は前年同期より2億92百万円増加し、15億83百万円となりました。製品別の売上高を比較しますと、通信システム分野においては、スマートフォン等、通信端末の開発案件が増加し、前年同期を1億27百万円上回りました。カーエレクトロニクス分野ではカーオーディオ等、車載関連の案件が増加し、前年同期を3億16百万円上回りました。情報家電等、その他組込型分野につきましては、デジタルテレビ関連が減少し、前年同期を1億52百万円下回りました。

3. 商品・製品販売

売上高は前年同期より8百万円減少し、37百万円となりました。セキュリティロッカーなどRFID関連製品や、Bluetooth製品等の販売が主です。

| 中間連結財務諸表

中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円未満切捨)

2010年4月1日から 2010年9月30日まで	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等		少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計		
2010年3月31日残高	2,514	2,998	3,003	△661	7,856	△309	△309	20	7,566
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△90		△90				△90
中間純利益			191		191				191
自己株式の取得				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)						△107	△107	△0	△108
中間連結会計期間中の変動額合計	-	-	101	△0	101	△107	△107	△0	△6
2010年9月30日残高	2,514	2,998	3,105	△661	7,958	△416	△416	19	7,560

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円未満切捨)

	2009 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	2010 2010年4月1日から 2010年9月30日まで
7 営業活動によるキャッシュ・フロー	551	156
8 投資活動によるキャッシュ・フロー	△132	△86
9 財務活動によるキャッシュ・フロー	△104	463
現金および現金同等物の増減額	313	532
現金および現金同等物の期首残高	1,717	2,393
現金および現金同等物の中間期末残高	2,031	2,926

7 営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務の減少による支出が2億8百万円、法人税等の支払による支出が2億61百万円ありましたが、税金等調整前中間純利益が2億84百万円となり、売上債権の減少による収入が4億78百万円あったことにより、1億56百万円の収入(前中間期5億51百万円の収入)となりました。

8 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の売却による収入が2億12百万円あったものの、投資有価証券の取得による支出が1億61百万円、連結範囲の変更を伴う子会社株式取得による支出が1億92百万円あったことにより、86百万円の支出(前中間期1億32百万円の支出)となりました。

9 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の返済による支出1億42百万円、長期借入金の返済による支出1億1百万円ありましたが、長期借入れによる収入8億円があったことにより、4億63百万円の収入(前中間期1億4百万円の支出)となりました。

ホームページのご案内

最新のIR情報や最新のニュース、過去の決算資料などがご覧いただけます。



最新のIR情報、
過去の決算資料

最新ニュース

<http://www.cresco.co.jp/index.html>

配当方針

当社は、株主のみならずに対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続することを基本方針としております。配当に関しましては、原則当社の経常利益をもとに特別損失を零(ゼロ)とした場合に算出される当期純利益の40%相当額を継続的に実現することを目指してまいります。当中間期の配当金につきましては、1株当たり7円50銭とし、期末配当金7円50銭と合わせて年間で15円の配当を見込んでおります。

| 会社情報・株式情報

会社の概要

(2010年10月1日現在)

商号	株式会社クレスコ
設立	1988年4月
資本金	2,514百万円
従業員数	958名
本社所在地	〒108-6026 東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟26階 03-5769-8011
事業所	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高輪センター 〒108-0074 東京都港区高輪三丁目13番1号 高輪コート5階 03-5423-6210 ■ 横浜センター 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目3番19号 新横浜ミネタビル5階 045-474-0982 ■ 北海道開発センター 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西五丁目1番1号 桂和大通ビル38 4階 011-200-5550
事業内容	情報処理システムに関する ■ コンサルティングおよびソリューションサービス業務 ■ 設計、開発業務 ■ 運用管理、保守業務 ■ 調査、分析、評価および技術支援業務

役員

(2010年10月1日現在)

代表取締役会長	岩崎俊雄
代表取締役社長	熊澤修一
常務取締役	丹羽蔵王
常務取締役	根元浩幸
取締役	山田則夫
取締役	木村孝之
取締役	高橋健一
取締役	高橋次義
取締役	波多腰茂
常勤監査役	白井義真
監査役	井手正介
監査役	小林正樹

(注) 監査役白井義真、監査役井手正介および監査役小林樹明は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

連結子会社

(2010年10月1日現在)

	クレスコ・イー・ソリューション株式会社 設立 1998年9月 資本金 2億円
	ワイヤレステクノロジー株式会社 設立 2005年10月 資本金 5,000万円
	株式会社クレスコ・コミュニケーションズ 設立 2006年4月 資本金 5,000万円
	クレスコ・アイディー・システムズ株式会社 設立 2008年3月 資本金 1億円
	株式会社アイオス 設立 1989年6月 資本金 3億1,336万円
	株式会社インフィニード 設立 2005年9月 資本金 1,700万円

株式の状況

(2010年9月30日現在)

発行可能株式総数	34,000,000株
発行済株式の総数	12,023,936株
	(自己株式1,176,064株を除く)
株主数	3,663名

所有者別株式分布状況(自社保有分を除く)

(2010年9月30日現在)

内訳	株式数(12,023,936株)	株主数(3,662名)
個人・その他	7,543,129株 (62.8%)	3,553名 (97.1%)
金融機関(銀行)	70,300株	1名
(信託銀行)	738,040株	18名
(生命保険会社)	215,640株	7名
(その他金融機関)	2,300株	1名
(計)	1,026,280株 (8.5%)	27名 (0.7%)
金融商品取引業者	101,797株 (0.8%)	23名 (0.6%)
外国法人等	262,266株 (2.2%)	34名 (0.9%)
その他の法人	3,090,464株 (25.7%)	25名 (0.7%)

大株主

(2010年9月30日現在)

株主名	持株数(百株)	議決権比率(%)
有限会社イワサキコーポレーション	27,054	22.63
浦崎 雅博	14,818	12.39
岩崎 俊雄	10,206	8.53
佐藤 和弘	5,990	5.01
クレスコ従業員持株会	5,322	4.45
田島 健司	4,448	3.72
イー・アンド・アイシステム株式会社	3,562	2.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,808	1.51
波多腰 茂	1,222	1.02
シービーエフエフエイインターナショナルキャップリポートフォリオ	1,026	0.85

(注) 当社の自己株式(11,760百株)は議決権がないため、上記の表には含めておりません。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	日本経済新聞に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
- なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取扱いいたします。

- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

